

# 梵珠だより

第116号



青森県立自然ふれあいセンター機関誌

メスアカミドリシジミ

発行／青森県立自然ふれあいセンター 〒038-1301 青森県青森市浪岡大字大釈迦字沢内沢1-1  
TEL 0172-62-4527 FAX 0172-62-8510 URL <http://www.jomon.ne.jp/~bonjyu/> メールアドレス [bonjyu@jomon.ne.jp](mailto:bonjyu@jomon.ne.jp)

## □ 行事レポート □

### ● 春の梵珠ふれあい週間 4月20日(火)～25日(日)



山頂までのガイド案内登山や半沢コースのトレッキングを行い、春の梵珠山を満喫しました。

### ● 梵珠山撮影登山

4月25日(日)



小田桐啓太氏 (AOMORIPhoto&Videoclub 代表)による梵珠山撮影登山を行いました。

### ● 新緑トレッキング 梵珠山～空沼

5月9日(日)



序盤は雨でしたがお昼には晴れ、馬ノ神山、空沼からの景色を堪能しました。

### ● 梵珠春の写真展

5月20日(木)～6月20日(日)



座学と実地での講習を行い、コンパスと地図の正しい使い方を学びました。

### ● 梵珠山から梵珠大滝、そして鐘撞堂山へ

6月6日(日)



梵珠山～梵珠大滝～三宝の松～鐘撞堂山を歩き、梵珠周辺の名所を巡りました。

# ● オクトリカブト

齋藤 信夫 (青森自然誌研究会)

トリカブトという名前を耳にただけで物騒な雰囲気漂うのは、過去にトリカブトの毒を使ったいろいろな事件や事故があったからだろう。中には、国内にとどまらず海外にまで発展した事件もあった。

トリカブトの仲間の毒はアルカロイド系だという。体内に入った場合、唇や舌のしびれに始まり、嘔吐・腹痛・下痢などの症状があらわれ、運動神経遮断となるというから恐ろしい。狩猟民族はトリカブトの毒を矢先に塗ったという。その毒矢で仕留めた獲物を食料にすると聞いたとき、毒で死んだ動物を食べていいものなのかなと危惧したが、長時間の加熱処理で毒性は1/200ほどに変化すると聞き納得した記憶がある。今では推理小説にも登場するトリカブトである。実物は知らなくても、活字や映像をとおして名前がインプットされている人も多いことだろう。県内でも山菜シーズンにはニリンソウと間違っ食べたと事件が報道されることがある。それだけ身近に生えている植物だとも言えるのだ。中でも、オクトリカブトはトリカブトの中でも毒性が強いようで、扱いには細心の注意が必要とか。

ところで、オクトリカブトは東北地方の内陸地域から日本海側地域にかけての低山に生育する種だと国立科学博物館の門田裕一先生が発表している。日陰の湿った場所で見かけることが多い。当然、梵珠山でも沢沿いの斜面や登山道脇などの湿った林床に普

通に分布している。草丈が2m近くなることもあり、花の形や色からも非常に目立つ植物である。

雪解け後、地上にあらわれてからのオクトリカブトの姿形の変化は大体次のようである。春先、地面から飛び出したオクトリカブトは、のちに最初の葉となる部分がオーバーコートのように内側を守っている。そして、茎を伸ばしながら葉を広げ、その変化を繰り返していくうちに、蕾がはっきり見えるようになってくる。開花がはじまるのは8月中旬～9月一杯くらいだろうか。花の姿は鳥兜と言われるだけあって、鳥の頭のような3cmほどの花が茎から分かれた花茎の先にまとまっている。10月下旬頃には種子を散布する時期を迎え、知らないうちに散布が終了しているのだ。こんな一連の変化を見せながら雪の季節を迎えることとなる。中には、つぼみが見え始めた頃から、まるで、うどんこ病のような白っぽい粉が果実や茎などにべったりついている個体を見かけることがある。そういう個体に限って、開花・結実まで至らない印象が強い。また、沢山の花が咲く割には果実形成まで持ち込む個体がそれほど多くはなく、拍子抜けすることもある。

いずれにしても、スタートダッシュは遅いが、春から晩秋まで、太陽エネルギーを十分にあび、地上での生活を謳歌するタイプの植物といえるのではなかろうか。



オクトリカブトの芽立ち (2021年4月6日)



オクトリカブトの花 (2018年9月9日)

生物こよみ (昨年)		7月														☀️☁️☔️: 昨年の天気		℃: 昨年の気温 (月最高気温)		低: 昨年の気温 (月最低気温)													
日	曜	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
観	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金		
察	ツルア	ヤマブ	クロツ	コムラ	ウラク	コムラ	ゴイシ	ルリシ	クマタ	デン	エソ	アスマ	ノシメ	アサキ	オシ	ゲン	ヤマ	ムラ	オオ	オニ	オオ	アカ	オセ	アサ	オニ	ソバ	ノシ	ヒグ	ヤマ	ミン	ツチ		
で	アド	キシ	グミ	ラサ	クロ	ラサ	シシ	カ	カ	カ	ト	ヒ	メ	マ	ドリ	ジ	ナ	サ	ル	ヤ	ウ	ア	イト	マイ	ヤ	ナ	メ	ラ	カ	シ	ア	ケ	
きた	ウシ	シヨ	ミ	キ	ロ	サ	シ	カ	カ	カ	ト	メ	カ	マ	リ	ボ	メ	キ	シ	ン	バ	シ	ト	チ	ナ	バ	メ	ラ	カ	シ	ビ	シ	
もの	花	ウマ	花	花	花	花	花	花	花	花	花	花	花	花	花	花	花	花	花	花	花	花	花	花	花	花	花	花	花	花	花	花	花
天	☀️	☀️	☀️	☁️	☁️	☀️	☔️	☔️	☀️	☀️	☔️	☔️	☔️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☔️	☀️	☀️	☀️	☀️	☔️	☔️	☔️	☀️	☔️		
℃	25	21	27	20	21	26	26	25	26	29	20	22	24	23	22	21	24	23	24	28	27	27	27	27	24	23	21	22	25	28	28		
低	17	17	16	16	16	16	19	20	15	14	17	15	15	16	16	16	15	17	18	19	18	20	19	20	19	19	18	17	17	17	19		

●早春の河川敷で我が子を育てるコブハサミムシ 市田 忠夫(津軽昆虫同好会)

ハサミムシは蛹を経ないで成虫になる昆虫で、バッタ目の親戚筋である。雑食性であるものの、どちらかという肉粗傾向が強い。

青森県でも見られるハサミムシは、ハマベハサミムシ科のハマベハサミムシ(単にハサミムシと呼ばれることもある)、オオハサミムシ科のオオハサミムシとヒメハサミムシ、クロハサミムシ科のクロハサミムシ、ミジンハサミムシ、チビハサミムシ、クギヌキハサミムシ科のエゾハサミムシ、キバネハサミムシ等である。

ほとんど全てハサミムシは暖かい季節に繁殖するが、クギヌキハサミムシ科のコブハサミムシはまだ気温が低い5月頃に繁殖を行う。その理由は不明であるものの、他種との生態的な競合を緩和するために発達した習性と考えられる。

河川敷の水に浸からない石の下に巣穴を掘って隠れ、そこで卵を産む。卵はカビて

しまったり、他の昆虫に食べられないように、母虫が頻繁に舐めて世話をする。

卵から子虫が生まれると、口移しに餌を与えて大切に育てる。母虫は寝食を忘れて、子虫の世話を続ける。そして最終的には、献身的に子育てした母虫は、我が子らに食べられてしまう。

この習性は、他のハサミムシには見られないもので、気温が低い時期に繁殖するため、他の虫に子供たちが食べられてしまわないように、少しでも早く一人立ち出来るように進化したたものと考えられる。

同じクギヌキハサミムシ科に属する種であっても、暖かい時期に繁殖するクギヌキハサミムシ、キバネハサミムシやエゾハサミムシは子育てをすることはなく、卵塊は物陰に産み捨てられる。孵化した幼虫は兄弟たちと別れ、自らの生命を賭して誰に頼ることもなく、自分の力で生きていく。



コブハサミムシ



コブハサミムシ卵保護

生物こよみ(昨年)		8月		☀️☁️☔️: 昨年天気		℃: 昨年気温(月最高気温)		低: 昨年気温(月最低気温)																							
日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
観察できたもの	ホツツジ花・クジャクソウ花	ヒメキマダラヒカゲ・トラツツミ	オオウバユリ花	ソバナ花	オニヤンマミカドフキバタ	ミンミンゼミ	デン・ウスバカミキリ	オトコエシ花	ミヤマカラスアゲハ・エゾゼミ	オオルリボシヤンマ	ヒメボタル	アケボノシユスラン花	ハネナガフキバタ	スジクワガタ	ノシメトンボ・ツリフネソウ花	カナヘビ	ヤマジノホトトギス花	アキアカネ	アブラゼミ・ウマオイ	ゲンノシヨウコ花	ジャコウソウ花	ギンヤンマ	カケス・オオルリボシヤンマ	カナヘビ・エゾゼミ	ツリソドウ花・トノサマガエル	セスジスカシバ	ミカドフキバタ	ツルニンジン花・フニエウ花	スナヤツメ	オニヤンマ	キバナアキギリ花
天	☀️	☀️	☀️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️
℃	27	28	30	29	30	28	27	25	25	30	32	30	29	24	32	29	25	27	31	30	24	24	29	28	29	32	32	33	32	21	21
低	20	20	19	21	23	22	17	17	20	21	22	21	20	20	23	21	21	21	21	19	20	19	18	20	20	20	21	22	21	17	18

# フィールドカメラに写った動物

## センター周辺



ホンドギツネ  
(5月7日 23:00頃撮影)



ホンドテン  
(5月21日 23:00頃撮影)

## アカゲラの道 (双子の木)



ホンドテン  
(6月21日 9:30頃撮影)

## 観察の森



ホンドタヌキ  
(6月10日 23:00頃撮影)

生物ごよみ (昨年)		9月														☀️☁️☔️ : 昨年の天気		℃ : 昨年の気温 (月最高気温)		低 : 昨年の気温 (月最低気温)											
日	曜	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
		月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
観察できたもの		アケボノシユスラン花	クマタカ	コムラサキ・アブラゼミ・トビ	ミソバ花・ヤナギタデ花	ニホントカゲ	ツリフネソウ花	キクガシラコウモリ	キジバト	アサキマダラ・ノコギリクワガタ	オオルリボシヤンマ産卵	ゴイシジミ	サラシナシヨウマ花	オクトリカフト花	モミジガサ花・タマブキ花	ホツツジ花・ツルリンドウ花	アキアカネ	タニソバ花・ミズヒキ花	オオイタドリ花	コゲラ	ガマズミ実・ノブドウ実	メスグロヒヨウモン	ルリタテハ・ヤマガラ	エナガ・ヒガラ	オオアオイトトンボ	コムユミ実	ホンドリリス	イヌタデ花	ミドリヒョウモン	シジュウカラ・カケス	ミカドフキハツタ
天		☀️	☀️	☀️	☔️	☁️	☀️	☀️	☀️	☀️	☁️	☔️	☔️	☁️	☀️	☀️	☁️	☔️	☔️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☔️	☁️	☀️	☀️	☀️	☀️	
℃		27	27	33	26	29	28	30	34	32	27	28	21	21	21	26	26	26	21	25	22	23	24	23	21	16	19	21	20	22	22
低		17	18	20	23	22	20	22	22	21	20	19	16	16	15	16	17	18	17	15	15	13	12	13	12	13	14	13	10	9	11